令和5年度　第２回　大阪府市文化振興会議　議事概要

◆日　時：令和6年3月26日（火）10時から11時10分まで

◆場　所：エル・おおさか（大阪府立労働センター）本館7階　709号室

◆出席委員：橋爪会長、片山副会長、梶木委員、志村委員、永田委員(オンライン出席)、原委員(オンライン出席)、

広瀬委員、宮崎委員

**【概　要】**

**１　会議の成立について**

（事務局）

・委員10名中8名の委員の出席により、会議が有効に成立していることを報告

**２　大阪府市の文化事業について**

(橋爪会長)

・本審議会として、府市の文化事業に対して進捗状況を把握し、チェックしていきたい。

・府市それぞれより、昨年度の事業実績及び今年度の事業予定について説明願う。

(事務局)

（大阪府…「資料３-1」「資料3-2」「参考1」に基づき説明

大阪市…「資料４-1」「資料4-2」「参考2」に基づき説明）

(橋爪会長)

・事務局の説明について、各委員からご意見、ご質問はないか。

（宮崎委員）

・大阪府と大阪市が共同で実施している大阪文化芸術祭事業（大阪文化芸術創出事業(文化芸術活性化)）や、万博の機運醸成に係る他の事業について質問したい。国内外から多数の方々が大阪に来て大阪の魅力に触れるということ自体はとても大事なことだと思うが、2025年の万博後に何が残るかという視点ではどう考えているか。

（事務局）

・大阪文化芸術祭事業（大阪文化芸術創出事業(文化芸術活性化)）については、例えば起用するアーティストやプロデューサーなどの中に、積極的に若手の方々に入っていただくなどしている。「育成」という観点をメインに事業を実施しているわけではないが、当該事業が３年間実施されることにより、文化芸術を担う次世代の育成や、大阪に文化が一層根付いていくきっかけになればと考えている。

（宮崎委員）

・私はアーツカウンシル部会委員として当該事業を実際に視察しており、とても盛り上がっていてよいと感じているし、また、事務局のご説明のとおり、当該事業に若手の方々が多数参画しているのを見受けている。しかし、例えば非営利文化芸術活動においては様々な活動があり、大阪府や大阪市の事業に関わっていないアーティストの方々や団体がまだまだいらっしゃる。すでに規模が大きい団体は行政の事業に関われる機会が多いのだが、小規模団体・中規模団体や、これからさらに活躍していく方々というのは、今はまだ未熟で小さい活動をしており、行政の事業に関われていないことが多い。そういった団体・アーティストでも、大阪だけではなく、東京や世界から注目されているような活動をされているケースもたくさんある。行政の事業の受託者となっている大きな企業からするとそうした活動がなかなか見えていない部分があるのではないか。行政からは、そのような、これから伸びていくようなアーティストや団体という存在にもぜひ注目して事業にも関わってもらい、大阪の面白さやこれからの文化芸術をつくっていく様子を見せられるような取組みや工夫を行っていただけたらと思っている。どうぞよろしくお願いいたします。

（橋爪会長）

・宮崎委員からのご指摘に関連して、私からも意見がある。まず１点目としては、現行の大阪府・大阪市それぞれの文化振興計画が令和７年度末までで終了するので、どのようなレガシーを残していくのかは、次期計画の中にきちんと描き込むべきだと考えている。令和６年度と令和７年度の２カ年にかけて、万博後の令和８年度以降の計画について、この会議でも検討していく形になろうかと思う。

・２点目としては、万博は「国際博覧会」なので、今の日本、大阪の若いクリエイターが世界のクリエイターとコラボレーションし一緒に何かを生み出すとか、あるいは世界に挑戦するクリエイターが大阪で生まれるとか、そういう場であるべきだと考えている。国際博覧会を誘致した意味を考えると国内で留まるアーティストの活動だけでは限界があると思うので、そのような点について事業の中でもご検討いただければと思う。若い人材と国際的な人材の双方を育成する機会があるというのが、国際博覧会の価値だと考えている。

・また、万博の機運醸成ということで令和５年度・令和６年度と文化関係の予算が通年より多くなっているが、万博に向けた３か年が終わっても大阪府・大阪市の文化行政に予算が継続して確保されるように、行政としても力を入れてもらえればということも申し添えたい。

・他にご意見等はないか。

（片山副会長）

・橋爪会長のご意見に関連して私からも意見を申し上げたい。この、万博が開催されるという機会に国際的な発信を行うということがとても大事だと考えている。2025年に万博が控えているが、その前年である今年を見ても、相当多くの方がインバウンドとして訪れてはいる。その中で、そうした方々が、何かのついでに大阪の文化芸術活動を見るのではなく、大阪の文化芸術活動を見ることを目的として日本に来てくれるような流れがあってこそ、彼らがリピーターとなって万博開催以降も継続的に大阪の文化に触れていくということになると思う。

・当該事業には国の補助金なども活用されているかと思うが、国の補助金の目的にもインバウンドをきちんと定着させていくことが含まれているかと思うので、そのあたりに対して先手を打ったマーケティングが必要。要するに、来阪した人にとりあえずオプショナルツアー的に大阪の文化に触れてもらうのではなく、大阪の文化を目指して来るような人たちを呼ぶ必要がある。日本でも、例えば瀬戸内国際芸術祭とか、それを目指して来る人を獲得できている文化発信の取り組みがある。やはりこの機会に大阪が「大阪の文化を目指して来る」という事業を実施すべき。関西でも、例えば京都などはそういう事業を実施できてきているので、大阪もきちんとそのような攻めのマーケティング、大阪の文化を目指して来る人を獲得できるような取り組みをきちんとやっていく必要がある。大阪府・大阪市でもそれなりの予算を掛けて事業を実施しているかと思うので、その中でもある程度の予算をそうした海外向けマーケティングのためにしっかり活かしていくことが大事だと考えている。

（橋爪会長）

・今の話とも関連して申し上げたい。万博のある2025年は、ほぼ毎日ナショナルデーや世界各国の何らかのセレモニ　ーがあり、会場内では文化的な催事も行われ、世界中の企業の関係者も大阪に来るという状態が半年続くことになる。各国を代表する世界中のアーティストも大阪に来る。我々がそれを受け入れるホストになるということは意識しておかねばらならない。その中においては、文化的な国際交流という面を忘れてはいけないと思う。インバウンドを含む観光客のことばかり意識するのではなく、万博は国際交流の場であり、ビジネスマッチングの場でもあるので、そこに向けた2024年とすべき。その上で、万博が開催される2025年を経て、万博のレガシーを活かしていくというような視点に立っていただきたい。芸能とか観光客を対象とした文化振興、体験型観光やナイトカルチャーももちろん大事ではあるが。

・オンライン参加の永田委員・原委員からは他にご意見などはないか。

（永田委員）

　・私としても、万博を契機として国際的な交流が一層育っていくようにしていただきたいと感じており、行政にはそういう方面での環境づくりや事業の推進をお願いしたい。また、現在は国がデジタル人材の育成に力を入れているが、海外に比べると日本では文化の世界でのデジタル人材の活用・活躍が遅れていると思っている。いわゆるハード面の整備も進めるべきだが、今後はハードを利用する側の、文化芸術分野にデジタルやＡＩなどの技術を活かしていく人材がどうしても必要になってくると考えている。今のアートの現場では、いわゆるパフォーミングアートでもＡＩ技術を活かすことが普通になってきているので、そういう面でも何らかのサポートが今後なされればよいと考えている。もし来年度以降、機会があればその種の方向で議論をいただければ、なおよいのではないかと考えている。

（橋爪会長）

・ありがとうございます。原先生からはいかがか。

（原委員）

・永田先生がおっしゃったデジタル分野の話とは逆の話になってしまうが。例えば、海外からのアーティストを招聘してアーティスト・イン・レジデンスをやっていくとか、造形芸術やパフォーミングアーツなどの様々な分野で、海外からアーティストが来て、あるいは日本・関西からアーティストが海外に行って、というような人的な交流も2025年に向けていくらかできるのではないのかと感じている。私が専門とする美術の分野においては、海外からの作品輸送に係るコストが、コロナ前の３倍くらいに増えている。保険についても、戦争など様々な要因によってコストが大幅に上がっている。そういった問題への対処として、国際芸術祭「あいち2022」では、海外から作品を輸送するのではなく、アーティスト本人に日本に来てもらい、日本で一緒に作品を製作していくという方法をとっていた。しっかりとした作品製作がなされており、人と人との交流もできて、非常によい取り組みであったように感じたので、そういった方向性についても今後少しご検討いただければと考えている。

（橋爪会長）

・ありがとうございます。ほか、ご意見はないか。

（梶木委員）

・私からは２点述べさせていただきたい。１点目としては、事務局からご説明いただいた、補助金事業の個別相談会や事業説明会を夜間に開催したというところはとても評価したいということ。新たな活動を始めたい人たちが、昼間は仕事をしていて日中の相談会や説明会になかなか行けないということがあるが、夜間に相談会や説明会などを実施していただけるなど支援体制がしっかりと整えられていれば、彼らが実際に補助金などに応募していくためのきっかけになるので、とてもよい取組みだと捉えている。

・もう1点は、先程からお話が出ている万博のことについて。私は子どもの遊び環境などを研究しているが、昨今、子どもの体験の格差、体験の貧困という問題がクローズアップされている。万博においても、どの子どもにも等しく、同じように、万博の素晴らしいアートやパフォーマンス等が身近に体験できるという機会・環境があるとよいと考えている。「会場に行かないと見られない」というものではなくて、全ての子どもが会場に行けたり、色々な人たちが大阪府内・大阪市内に来てくれるような事業が行われるとよい。やはり体験の貧困というのは、例えば子どもの頃にアートに触れることがなければ、「アートって自分からは遠いもんだな」みたいに感じるところもあったりすると思うので、ぜひ裾野を広げていただく方向性についても頑張っていただきたい。当時、子どもとして1970年の万博を体験して「万博というのはすごいものだな」と感じていた者からすると、今の子どもにもそういう体験をしてもらえるようになることを願っている。

（橋爪会長）

・ご意見ありがとうございます。他にご意見はないか。

・大阪府・大阪市におかれては、委員からの意見を踏まえ、来年度以降の施策の推進をお願いいたします。

**３　大阪アーツカウンシルの取組みについて**

（橋爪会長）

・続いて、大阪アーツカウンシルの昨年度の活動実績について、アーツカウンシル部会長である宮崎委員からご説明いただきたい。

（宮崎委員）

（「資料5」に基づき説明）

（橋爪会長）

・ありがとうございます。ただいまの宮崎委員からの説明について、ご意見やご質問はないか。

（広瀬委員）

・企画のアートキャリア講座について、とても素晴らしい取り組みだと感じている。文化芸術について「こういうことをやりたい」とぼんやり考えている若い人がいても、どうしていいかわからなかったり、入り口がどこかというので迷ってしまって、なし崩しにその道から外れるというか、別の道に行ってしまったりというようなことも多々あると思う。また、特に、登壇者を若い方々が務められていたという点について、参加者からすると非常に親しみも持ててよかったのではないかと思われる。

・先ほど、大阪府と大阪市からも補助金事業・助成金事業について説明があったが、やはり若い表現者の方々、それから、中年層と言うべきか、真ん中世代に差し掛かる方々にも、大阪を拠点として活動しつづけていただくというような支援ができたら、さらにいいのではないかと感じている。

・例えば顕彰・表彰を受けたとしても、途中で文化芸術活動をやめてしまう方や、どこか別の土地へ行かれる方は多数おられる。現代演劇でいうと、「旧新劇」というのは変な言い方だが、いわゆる新劇系の方々は、真ん中世代の男性の俳優がものすごく少ない。それは、若い時は、活動をしながらでも自分一人で生活していけるけれども、一定の年齢になり家庭を持って子どもができたりすると、やはり固定の収入がないと辛くなってくるから。そして、元々は演劇が本業で、アルバイトで生活費を補填していたはずが、いつの間にかアルバイトのほうを本業にせざるを得なくなったりするような状況がある。そういう背景から、どこの劇団も真ん中の世代、30歳代後半から40歳代・50歳代あたりはとても少なくなっている。

・でも、女性の俳優はそうでもなかったりする。言い方が適切か不明だが、例えば女性は、自分を食べさせることができたら何とかやっていけたりするのかもしれない。子どものいらっしゃる方もいるが、ご結婚されていれば、夫婦の収入で生活していけるのではないか。しかし、男性のほうには、以前よりは改善されているとは思うが、やはり「子どもを育てていかないといけない」「家計を維持しなければならない」という圧力のようなものがあるようで、世間からもそう見られることが多いと思われるし、男性の方々はそういった辛さも抱えておられるのではないかと感じている。

・そうした背景から、演劇作品の中で、割と配役が歪（いびつ）になってしまったり、夫婦役の二人の俳優の年齢がものすごく離れていたりということがある。もともと脚本でそういう設定ならよいのだが、そうではないのにそうなってしまうというような様子も多々見受けられる。俳優を辞めた方も、辞めたくて辞めたわけではないと思う。文化芸術活動を続けたくても、どうしようもないというような環境もあるかと思うので、そうした方が活動を続けられるような支援、環境づくりができればと考えている。

（橋爪会長）

・ありがとうございます。他にご意見はないか。

・では、アーツカウンシルの取組みにつき報告いただいたということで、皆様にお諮りします。宮崎委員におかれましては、令和４年度にアーツカウンシル部会長にご就任いただき、２年の任期が今年度末までとなっており、会長の私としては、引き続き宮崎委員にさらに２か年、令和6年度・7年度と部会長に再任いただきたいと考えているが、いかがか。

（異議なし）

（橋爪会長）

・ご異議なしということで、宮崎委員にはアーツカウンシル部会長に再任いただくこととしたい。どうぞよろしくお願いします。

（宮崎委員）

・ありがとうございます。精いっぱい努めますのでどうぞよろしくお願いいたします。

（橋爪会長）

・宮崎部会長には、先程の広瀬委員のご意見も踏まえつつ、今後もアーツカウンシルが、行政の推進体制としてより充実していくよう、ご尽力いただきますようお願いします。

・本日の議題は以上となるが、最後に、任期満了のため令和６年３月31日をもってご退任される委員の皆さまより一言ずつご挨拶を頂戴できればと思います。

（梶木委員、永田委員より退任挨拶）

（橋爪会長）

・ありがとうございました。本日の会議をご欠席されている蔭山委員・笑福亭委員におかれても、今年度末をもってご退任されるが、ご退任される皆さまにおかれましては、長きにわたり、大阪府市の文化行政の推進にご尽力いただき、改めて感謝申し上げます。

・他、委員の皆さまからコメント等がなければ、これで終了としたいと思います。ありがとうございます。

―　以上　―